

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年 8月 21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103189		
法人名	社会福祉法人広島常光福祉会		
事業所名	グループホームげんき福田		
所在地	広島県広島市東区福田5丁目1168番地1 ☎(082)899-7588		
自己評価作成日	令和5年7月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103189-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103189-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年8月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

職員は、普段の関りの中で知り得た情報は共有し、利用者一人一人の性格、能力、生活履歴等などへの理解を深め、日々の支援を行っています。  
施設の中でも、今までしてきた事の継続や、個々の想いをくみ取りながら、その人らしく生活を送れるように努めています。  
利用者家族には、日頃の状況を報告したり、いつでも相談できる体制であることを伝えるなど環境を整え、情報を共有しています。  
地域では町内会へ加入し、新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら、町内清掃や他事業所との交流を行う等、楽しみのある生活を送れるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念に基づき毎年事業所目標を策定・検証し、今年度は利用者・職員各々の自己肯定感向上に繋げるべく、「相手のいいところを声に出して伝えよう」としている。特に接遇向上を重視しており、年間接遇目標とその実現に向け四半期目標を策定・更新している。年に一度外部講師による法人内各事業所の実地評価を実施し、目標の達成度を検証する仕組みがある。又、今年度から新管理者のもと、働きやすい職場作りとして業務全般の見直しのため職員意見を集約し、給食業務の変更等、業務の効率化を図っている。現在、感染対策をして玄関先での面会や家族同伴での外出が可能となり、関係継続の支援に繋がっている。なお事業所に協力医療機関・薬局が近接しており、適切な連携医療が受けられる体制を築いている。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念・行動規範を掲げ、目につく場所に掲示し、毎朝朝礼で唱和し意識出来るようにしている。又、接遇においては、別に目標を掲げ、事業所全体に意識づけ、毎月振り返り・3ヶ月ごとに目標設定している。	法人理念を事業所理念とし、それに基づき毎年事業所目標を策定・検証している。特に接遇向上に注力しており、年間接遇目標とその実現に向けた四半期目標を策定・更新している。それらを周知すべく掲示や唱和し、職員も年間目標を設定し半期毎の個人面談で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内清掃等に参加し交流を深めている。運営推進会議の中でも地域の方に参加を求め、情報交換している。	現在はコロナ禍で近隣散歩等以外は自粛中だが、町内会に加入しており、地域清掃や老年会活動に職員が協力したり、地域女性会が毎月裁縫ボランティアとして来訪する等、相互交流がある。又、事業所として地域の認知症カフェの運営に協力したり、今年から子ども110番の家に登録している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症アドバイザー養成講座受講者」が3名おり、認知症全般において支援方法等を地域に活かせるように備えている。随時施設見学を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、町内会の方、職員が出席し、2ヶ月に一度開催している。地域の方の意見を頂き、サービスに活かしている。コロナの感染予防策で利用者の参加は控えている。また、ご家族については、都度案内しているが、最近では参加が無い。	直近2回の会議は対面、その前4回は殆ど書面会議であり、情報共有や意見交換のため、参加できない全家族、現・元町内会長、元民生委員、地域包括支援センター職員に会議資料を送付し意見聴取をしている。提示された接遇目標の敬語の使い方に関し、程良い関係性を配慮するような意見を得ている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町、区役所担当者との連絡は電話やFAX等で行い、何かあった際には、報告、連絡、相談している。生活保護者対応事業所の為、各区の生活保護担当者と連絡し合うこともある。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し情報共有を図っており、会議の開催報告書は市担当課に送付している。市担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や報告、行政主催の集団指導等、研修会での情報共有、市が実施主体である認知症カフェの運営にも協力している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束会議を2ヵ月に一度行っている。職員勉強会の議題にする等、常に職員の中に意識と知識を持てるようにしている。</p>	<p>適宜の身体拘束廃止委員会・隔月の身体拘束会議・内部研修会等を通し、職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアは伝達ノートや組織内情報システム「掲示板」を通して職員間で共有し、又、注意し合える関係性も構築している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年に1回の勉強会とは別に、身体拘束会議の中でも話をしている。どのような対応が虐待にあたるか、誰にでもわかるように、日頃の対応に沿って具体例をあげる等、勉強会の内容も工夫し、防止に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資料等だれでも見る事が出来るようにしている。入居者に後見人が必要かどうか、関係者で話し合っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者と家族に事業所や契約内容等の説明し、同意を得て契約を交わしている。家族等からの疑問等の問い合わせは、電話等でも対応している。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当会議や面会時 運営推進会議と直接意見を頂ける機会を設けている。またご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内も行っている。</p>	<p>家族の要望は面会時・電話・書面による運営推進会議・年1回の満足度調査・意見箱等を通して把握し、伝達ノート・ケース記録等で共有して迅速な対応に努めている。利用者の歩行の様子を心配した家族の要望に対し、系列施設の専門職の協力を得て職員と疼痛軽減体操を行った例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回の職員会議、リーダー会議、フロア会議、係り別会議を実施している。又、年に一度業務改善についてのアンケート行う等、意見交換・傾聴する場を設けている	毎月の職員会議・リーダー会議・ユニット会議等の他、毎日の申し送りや随時又は年2回の個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け、業務上の提案等に対する支援体制を採っている。管理者のもと、業務全般の見直しのため職員意見を集約し、給食業務の変更等を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務状態を把握している。年に二回の人事評価を実施している。管理者は個別での面談を行い各自の意見を聴く事が出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修には積極的参加を促している。各職員の性格等も考慮しながら研修に推薦している。資格取得には法人からの補助も有り職員全体のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や勉強会 行事を通じ、交流の機会を設けて意見交換や意識とサービスの向上を目指している。研修に参加することで、他事業所の方と交流出来ることもある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報をまとめサービス開始までに職員全員で周知し、理解を深める等、受入れの体制を整えている。声掛けや見守りから想いをくみ取り職員間で情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や入所時には 必ず意見や希望を伺っている。またいつでも相談を受けられる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人内の他部署とも連携し、新しい情報を得るような体制にしている。必要時には他のサービスや他のグループホームを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事が続けられるように援助していく事を常とし、家庭的な雰囲気の中 自立を促していけるような声掛けを行っている。花の世話や食事作り等、入居者の得意なことは活かしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有を行うことで 家族と共に支え合う関係の構築に努めている。家族に入居者の状態報告を行いながら、必要な病院受診や必要物品の購入等の支援を依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了承が有れば友人や地域の方との面会も自由に行っている。外出も感染予防に努めてもらいながら、家族同伴のもと自由にしてもらっている。又、外出がしやすいよう準備の支援を行っている。外部からの電話や手紙も受ける事が出来ている。	現在、感染対策をして玄関先での面会や家族同伴での外出が可能となっている。又、利用者所有の携帯電話や事業所電話の取り次ぎ・手紙の受け渡しの他、利用者が載っている定期的な事業所便りの配布、受診等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日を楽しく生活して頂けるように集団レクへの参加、個別レクの実施、各ユニット間の交流時間を設けている。入居者同士の会話もフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の施設等に転居されても、出会った時には入居者と家族には声を掛けさせて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時のアセスメント時では本人、家族にしっかり聞き取りを行っている。日々接している中で希望等を聴いたら即対応出来るようにしている。	職員は利用者と話す中で思いを汲み取って伝達ノートや担当者会議に反映する等、思いの共有に努めている。寝たきりの利用者の嚥下状態を見て栄養補助食品を提供したり又、排泄もオムツよりできるだけトイレの方が気持ち良いのではと本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所までの面接時等に本人、家族に必ず聞き取りを行っている。病院、ケアマネ等から情報をもらっている。馴染のある本人の持ち物を居室で使用出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援する前に記録の確認と申し送りで、直近の様子を把握している。発言など細かな様子まで記録に残し、日々の状態で出来る事、出来ない事を職員間で情報共有しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、主治医に希望や意見を伺うと共に、職員間で意見を出し合い介護計画に反映させている。家族との面会時に意見交換を行っている。プランを実施する中でも、職員間で話し合いながら対応している。	職員による会議を踏まえ家族参加による担当者会議を開催する体制になっている。利用者毎の担当職員が毎月のモニタリングで利用者の状況や気づきを計画担当者に報告し集約している。計画の見直しは基本的に四か月毎に行い、馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の一日の様子が分かりやすいように項目別に、色分けにて記録に残している。うまくいった事、入居者の反応なども記録したり申し送りしたりし、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護計画で計画した内容も、本人、家族より希望あれば即変更している。家族では対応が難しい場合などには、職員が代替サービス提供、又は紹介している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。町内会行事はコロナ過で中止が続いていたが、今後は積極的な参加を予定している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医がグループホームから近く、週2回の往診や定期受診を行い、急変時にはすぐに対応してもらっている。入居者の体調の相談を密に行っている。主治医以外の受診希望者には家族の協力も得られるように事前に説明している。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は隣接の協力医を主治医とし、そこから週2回、協力歯科医から週1回の訪問診療を受けている。専門医の受診は主に家族の協力によるが、協力医療機関の訪問看護や隣接薬局との連携で適切な医療が受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の看護師と訪問看護の契約を行っている。急変時にはすぐに受診出来る体制を取っている。協力医が近くにいるのも本人、家族の安心感につながっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際はすぐに医療機関への情報提供を行っている。経過状況を確認する為に病院相談員や、対応している家族とも連絡を密に取るなどし、スムーズに退院できるよう支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前の面接時と契約時には重度化した場合には対応出来ない場合もあると説明し、本人、家族が納得されてからの入所としている。協力医療機関と医療連携体制契約を結んでいる。</p>	<p>利用開始時、重度化した場合の指針にて基本的な方針を説明し理解を得ている。重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。継続して利用が困難な状況と判断されると介護老人福祉施設等への入所や協力医との連携をもとに入院等に取り組む方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>年間計画で勉強会内容に必ず入れ、職員全員で情報共有している。事故等あった後にはその経験を活かせるように職員全員で見直し、検討・対策を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回は訓練を行うように計画を立てて実施し、その内1回は夜間を想定している。訓練には家族、地域の方、消防職員にも声をかけ合同訓練を行えるように計画している。職員は法人内の施設へも訓練参加している。</p>	<p>年2回の火災訓練と年1回の災害訓練を実施している。ハザードマップでは土砂災害警戒地域であり、減災対策として二日分の水・食料の備蓄や隣接法人施設の後方支援もある。令和3年度より策定している自然災害と感染症の業務継続計画を、その後の新型コロナウイルス感染症を踏まえ更新している。</p>	



自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護や虐待の勉強会を計画し、職員全員に周知を図っている。また接遇リーダーが中心となり、目標を立てて取り組む等している。	研修で職員の幅広い知識習得と資質向上を図ると共に半年毎に「不適切なケア点検表」で日頃の言動を振り返っている。特に接遇向上を重視して年间接遇目標とその実現に向けた四半期目標を策定・更新している。又、ケース記録で他利用者はイニシャル表記等、個人情報にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が何でも言える環境づくりを行っている。自己決定が出来るよう、難しい場合は職員が工夫し援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	概ね、施設の流れは決まっているが、食事時間、臥床時間、起床時間など一人ひとりのペースに合わせて支援している。活動も個人に合うものを提示し、希望に沿って実施出来るよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日本人が着たい服を選んで着てもらえるよう支援している。衣替えは家族に協力して頂き行っている。本人の希望を聞き月1回程度出張理美容を利用している。化粧をする方は家族に必要な物品を依頼している。職員による美容レクも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りやおやつ作り、おかずの盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きなど一人ひとりの能力を活かし職員と一緒に楽しめるようにしている。必要な方にはトロミや刻みの対応、低脂肪やカロリーオフ等の飲み物の使用も行っている。	食事は外部委託業者の食品を再加熱しご飯を添えて提供している。食が楽しみとなる様、月一回フリーメニューの日に焼肉・お好み焼き等の食事作りやおやつ作りを職員と共に行っている。利用者は盛り付け等、できる役割を担い、おやつを買うため隣接法人施設の売店を利用することもある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	各入居者が1日に摂った食事量、水分量 を毎食時記録に残している。一人ひと りの嚥下、咀嚼状態に合わせ食事形態を 変えて支援している。水分補給の回数 を多くし、水分量の確保に努めている。 主食の他、野菜を中心とした副菜、汁 物等、バランスの良いメニューを提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前はイソジンでうがいしてもらい、 感染予防や口腔内の清潔保持に努め ている。毎食後歯磨きとお茶うがいの 声掛けや介助を行っている。夜間は 義歯を外し、洗浄剤に浸けている。 希望者は訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、 習慣を活かして、トイレでの排泄や 排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、入居者の排 泄パターンを把握し、時間が空く時 や食事前など声掛けしトイレに誘 導している。失敗する方には職員 間で話し合いながら声掛けの間 隔を短くする等、対応を工夫し ている。	排泄記録表で排泄パターンを把握 したトイレ誘導を基本としている。 尊厳やプライバシーに配慮して ケアに関わり、体調に合わせて パンツの使い分け、姿勢安定の ために可動式手すりの設置、夜 間排泄時の転倒防止にセンサー マットを設置する等、状態に合 わせた排泄の自立支援を行っ ている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 飲食物の工夫や運動への働きかけ 等、個々に応じた予防に取り組ん でいる。	毎日体操の中で排便体操を取り入 れたり廊下歩行を行ったりと、運 動する時間を作っている。食事 面では乳製品や寒天ゼリーを朝 食時に提供すると同時にこまめ に水分摂取を促し、スムーズに 排便が出来るよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに 合わせて入浴を楽しめるように、 職員の都合で曜日や時間帯を決 めず、個々に応じた入浴の支援 をしている。	本人の希望や体調に合わせて入 浴を行っている。出来る事は行 って頂き本人のペースで入浴 している。浴槽に入浴剤を入れ て、香りも楽しめるようにし ている。	週2回の午後入浴が基本だが、 利用者の体調や習慣に合わせ 柔軟に対応している。入浴は 半埋め込み式家庭浴槽で個人 浴の他、利用者の重度化に伴 い複数介助で対応したり、シャ ワー浴・足浴等の対応もして いる。季節も楽しめる様、冬 至に柚子湯や好みの入浴剤を 選ぶこともできる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を把握しその人が安心して眠れるよう支援している。また午後からも居室で休息して頂けるよう支援している。時間を決めての対応では無く、本人の思いを傾聴し、対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の体調変化を医師に報告し、薬について指示を受けている。定期的に薬剤師より薬剤指導を受け、用法、用量等確認しながら薬管理や服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所時に家族に生活歴、趣味などを聞き、今までしていたことが継続できる等、施設でも楽しく過ごせるよう支援している。又、自分でおやつも選んで購入出来るようにしている。誕生日にはケーキを用意して誕生日者を主役にし、お祝いしている。食事作りやおやつ作りに参加してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染予防対策の緩和により、家族との外出等も許可し、予防対策しながら、外出出来るよう支援している。家族にも協力してもらっている。又、可能な時期にはドライブ等実施している。本人の希望を聞きながら敷地内の散歩や花の世話等なるべく外に出る機会を作っている。	現在はコロナ禍で外泊は自粛中だが、感染対策をして家族同伴での外出は可能となっている。又、近隣の芝桜・立葵の見物散歩や買い物レクで隣接法人施設の売店を利用する等の工夫もしている。森林公園等へのドライブ等、普段は行けないような所へ行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の承諾のもと、本人の希望に応じている。またほしい物があれば職員と一緒にお店に行き購入している。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間はゆっくりくつろげる空間としてソファを配置し、常に人を近くで感じてもらえるようにしている。リビングに季節に応じた飾りや壁画を入居者と一緒に作って飾り、個人の作品も飾っている。光の差し込みに応じカーテンを閉めたり、外の景色が見えるように工夫しながら対応している。	プランターの朝顔や利用者作品・季節行事の飾り付けで季節の移ろいを感じられる様配慮したり、カーテンで西日や暑さを調整している。テレビでインターネット動画の視聴を可能にする機器で馴染みの動画や1/f(えふぶんのいち)ゆらぎの音を流し、居心地のよい空間も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや椅子を置き入居者同士が話ができるよう工夫している。1人がけのソファもあり、1人になれる空間としても活用出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた家具などを持ってきて頂き本人が居心地よく過ごせるよう家族と相談している。好きな置物や写真、自分の作品、花等も置き、楽しむことが出来ている。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台等を設置し、テレビ等、使い慣れた物や人形等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッドから居室扉までの導線確保のためベッド配置を変える等の工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室や共有場所に表札を付けて場所等を分かりやすくしている。入居者に転倒やケガ、歩行の妨げにならないよう危険な物は置かないよう配慮している。		

V アウトカム項目( 1階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念・行動規範を掲げ、目につく場所に掲示し、毎朝朝礼で唱和し意識出来るようにしている。又、接遇においては、別に目標を掲げ、事業所全体に意識づけ、毎月振り返り・3ヶ月ごとに目標設定している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内清掃等に参加し交流を深めている。運営推進会議の中でも地域の方に参加を求め、情報交換している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症アドバイザー養成講座受講者」が3名おり、認知症全般において支援方法等を地域に活かせるように備えている。随時施設見学を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、町内会の方、職員が出席し、2ヶ月に一度開催している。地域の方の意見を頂き、サービスに活かしている。コロナの感染予防策で利用者の参加は控えている。また、ご家族については、都度案内しているが、最近参加が無い。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町、区役所担当者との連絡は電話やFAX等で行い、何かあった際には、報告、連絡、相談している。生活保護者対応事業所の為、各区の生活保護担当者とも連絡し合うこともある。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束会議を2ヵ月に一度行っている。職員勉強会の議題にする等、常に職員の中に意識と知識を持てるようにしている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	年に1回の勉強会とは別に、身体拘束会議の中でも話をしている。どのような対応が虐待にあたるか、誰にでもわかるように、日頃の対応に副って具体例をあげる等、勉強会の内容も工夫し、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料等だれでも見る事が出来るようにしている。入居者に後見人が必要かどうか、関係者で話し合っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者と家族に事業所や契約内容等の説明し、同意を得て契約を交わしている。家族等からの疑問等の問い合わせは、電話等でも対応している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や面会時 運営推進会議と直接意見を頂ける機会を設けている。またご意見箱の設置や苦情相談窓口のご案内も行っている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回の職員会議、リーダー会議、フロア会議、係り別会議を実施。又、年に一度業務改善についてのアンケート行う等、意見交換・傾聴する場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務状態を把握。年に二回の人事評価を実施。管理者は個別での面談を行い各自の意見を聴く事が出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修には積極的参加を促している。各職員の性格等も考慮しながら研修に推薦している。資格取得には法人からの補助も有り職員全体のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や勉強会 行事を通じ、交流の機会を設けて意見交換や意識とサービスの向上を目指している。研修に参加することで、他事業所の方と交流出来ることもある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報をまとめサービス開始までに職員全員で周知し、理解を深める等、受入れの体制を整えている。声掛けや見守りから想いをくみ取り職員間で情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や入所時には必ず意見や希望を伺っている。またいつでも相談を受けられる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人内の他部署とも連携し、新しい情報を得るような体制にしている。必要時には他のサービスや他のグループホームを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事が続けられるように援助していく事を常とし、家庭的な雰囲気の中で自立を促していけるような声掛けを行っている。花の世話や食事作り等、入居者の得意なことは活かしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有を行うことで 家族と共に支え合う関係の構築に努めている。家族に入居者の状態報告を行いながら、必要な病院受診や必要物品の購入等の支援を依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了承が有れば友人や地域の方との面会自も由に行っている。外出も感染予防に努めてもらいながら、家族様同伴の元 自由にしてもらっている。又、外出がしやすいよう準備の支援を行っていた。外部からの電話や手紙も受ける事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日を楽しく生活して頂けるように集団レクへの参加、個別レクの実施、各ユニット間の交流時間を設けている。入居者同士の会話もフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の施設等に転居されても、出会った時には入居者と家族には声を掛けさせて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時のアセスメント時では本人、家族にしっかり聞き取りを行っている。日々接している中で希望等を聞いたら即対応出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所までの面接時等に本人、家族に必ず聞き取りを行っている。病院、ケアマネ等から情報をもたらしている。馴染のある本人の持ち物を居室で使用出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援する前に記録の確認と申し送りで、直近の様子を把握している。発言など細かな様子まで記録に残し、日々の状態で出来る事、出来ない事を職員間で情報共有しながらケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、主治医に希望や意見を伺うと共に、職員間で意見を出し合い介護計画に反映させている。家族との面会時に意見交換を行っている。プランを実施する中でも、職員間で話し合いながら対応している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者の一日の様子が分かりやすいように項目別に、色分けにて記録に残している。うまくいった事、入居者の反応なども記録したり申し送りしたりし、プランに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護計画で計画した内容も、本人、家族より希望あれば即変更している。家族では対応が難しい場合などには、職員が代替サービス提供、又は紹介している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。町内会行事はコロナ過で中止が続いていたが、今後は積極的な参加を予定している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医がグループホームから近く、週2回の往診や定期受診を行い、急変時にはすぐに対応してもらっている。入居者の体調の相談を密に行っている。主治医以外の受診希望者には家族の協力も得られるように事前に説明している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師と訪問看護の契約を行っている。急変時にはすぐに受診出来る体制を取っている。協力医が近くにいるのも本人、家族の安心感につながっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はすぐに医療機関への情報提供を行っている。経過状況を確認する為に病院相談員や、対応している家族さまとも連絡を密に取るなどし、スムーズに退院できるよう支援している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前の面接時と契約時には重度化した場合には対応出来ない場合もあると説明し、本人、家族が納得されてからの入所としている。協力医療機関と医療連携体制契約を結んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間計画で勉強会内容に必ず入れ、職員全員で情報共有している。事故等あった後にはその経験を活かせるように職員全員で見直し、検討・対策を行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回は訓練を行うように計画を立てて実施し、その内1回は夜間を想定している。訓練には家族、地域の方、消防職員にも声をかけ合同訓練を行えるように計画している。職員は法人内の施設へも訓練参加している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護や虐待の勉強会を計画し、職員全員に周知を図っている。また接遇リーダーが中心となり、目標を立てて取り組む等している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が何でも言える環境づくりを行っている。自己決定が出来るよう、難しい場合は職員が工夫し援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	概ね、施設の流れは決まっているが、食事時間、臥床時間、起床時間など一人ひとりのペースに合わせて支援している。活動も個人に合うものを提示し、希望に沿って実施出来るよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日本人が着たい服を選んで着てもらえるよう支援している。衣替えは家族に協力して頂き行っている。本人の希望を聞き月1回程度出張理美容を利用している。化粧をする方は家族に必要物品を依頼している。職員による美容レクも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りやおやつ作り、おかずの盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きなど一人ひとりの能力を活かし職員と一緒に楽しめるようにしている。必要な方にはトロミや刻みの対応、低脂肪やカロリーオフ等の飲み物の使用も行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	各入居者が1日に摂った食事量、水分量 を毎食時記録に残している。一人ひと りの嚥下、咀嚼状態に合わせ食事形態を 変えて支援している。水分補給の回数 を多くし、水分量の確保に努めている。 主食の他、野菜を中心とした副菜、汁 物等、バランスの良いメニューを提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前はイソジンでうがいしてもらい、 感染予防や口腔内の清潔保持に努め ている。毎食後歯磨きとお茶うがいの 声掛けや介助を行っている。夜間は 義歯を外し、洗浄剤に浸けている。 希望者は訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、 習慣を活かして、トイレでの排泄や 排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、入居者の排 泄パターンを把握し、時間が空く時 や食事前など声掛けしトイレに誘 導している。失敗する方には職員 間で話し合いながら声掛けの間 隔を短くする等、対応を工夫し ている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 飲食物の工夫や運動への働きかけ 等、個々に応じた予防に取り組ん でいる。	毎日体操の中で排便体操を取り入 れたり廊下歩行を行ったりと、運 動する時間を作っている。食事面 では乳製品や寒天ゼリーを朝食 時に提供すると同時にこまめに 水分摂取を促し、スムーズに排 便が出来るよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに 合わせて入浴を楽しめるように、 職員の都合で曜日や時間帯を決 めず、個々に応じた入浴の支援 をしている。	本人の希望や体調に合わせて入 浴を行っている。出来る事は行 って頂き本人のペースで入浴 している。浴槽に入浴剤を入れ て、香りも楽しめるようにし ている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を把握しその人が安心して眠れるよう支援している。また午後からも居室で休息して頂けるよう支援している。時間を決めての対応では無く、本人の思いを傾聴し、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の体調変化を医師に報告し、薬について指示を受けている。定期的に薬剤師より薬剤指導を受け、用法、用量等確認しながら薬管理や服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所時に家族に生活歴、趣味などを聞き、今までしていたことが継続できる等、施設でも楽しく過ごせるよう支援している。又、自分でおやつも選んで購入出来るようにしている。誕生日にはケーキを用意して誕生日者を主演にし、お祝いしている。食事作りやおやつ作りに参加してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染予防対策の緩和により、家族との外出等も許可し、予防対策しながら、外出出来るよう支援している。家族にも協力してもらっている。又、可能な時期にはドライブ等実施している。本人の希望を聞きながら敷地内の散歩や花の世話等なるべく外に出る機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の承諾の元、本人の希望に応じている。またほしい物があれば職員と一緒にお店に行き購入している。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の要望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間はゆっくりくつろげる空間としてソファを配置し、常に人を近くで感じてもらえるようにしている。リビングに季節に応じた飾りや壁画を入居者と一緒に作って飾り、個人の作品も飾っている。光の差し込みに応じカーテンを閉めたり、外の景色が見えるように工夫しながら対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや椅子を置き入居者同士が話ができるよう工夫している。1人がけのソファもあり、1人になれる空間としても活用出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた家具などを持ってきて頂き本人が居心地よく過ごせるよう家族と相談している。好きな置物や写真、自分の作品、花等も置き、楽しむことが出来ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室や共有場所に表札を付けて場所等を分かりやすくしている。入居者に転倒やケガ、歩行の妨げにならないよう危険な物は置かないよう配慮している。		

V アウトカム項目( 2階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき福田

作成日 令和5年10月4日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を開催しても、利用者・家族の参加がほとんど無く、直接、施設の状況を伝える機会が少ない。	利用者・家族に参加してもらい、状況を知って頂くと共に、頂いた意見をサービス向上に反映する。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用者・家族への声掛け。</li><li>会議の開催内容の充実（参加したくなるような内容に）</li></ul>	1年
2	35	災害時、地域との協力的体制作りがあいまい。	災害時に協力し合える関係を構築する。	<ul style="list-style-type: none"><li>日頃から地域に出掛けるなど、顔見知りの関係を築く。</li><li>地域と合同訓練を行うなど、協力し合える関係を作る。</li></ul>	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。